

桐生が岡動物園・遊園地の園内施設拡充並びに 周遊観光施策の推進について（継続）

桐生が岡動物園は昭和28年の開園以来、子供たちはもとより大人にも愛され親しまれ、動物に接することによる命の大切さが自然に身に付くなど、情操教育の場にもなっていました。

また、隣接する桐生が岡遊園地は、数々の大型遊器具・小型乗物を有し、その利用料金は最高でも200円と、大変リーズナブルな料金体系となっており、いずれの施設も桐生市内はもとより、広く関東エリアからも多くの方が来園される、桐生市を代表する観光スポットの一つとなっています。

市外からの更なる誘客を図るために、下記事項について要望いたします。

1. 開園以来数十年の年月が経過し、園内の遊器具や獣舎等の施設が老朽化していることから、ミニ蒸気機関車などの新たな遊器具の設置・獣舎の改築・新たな動物の購入等、園内施設の拡充を図るとともに、維持管理費プールの手段としての入場料有料化の検討。
2. 市外からの来園者が、桐生新町重要伝統的建造物群等の市内観光スポットを周遊し、楽しくなるような魅力ある観光施策の推進。
3. MAYUの「遊園地・動物園コース」の運行ルートに桐生駅発着を加えることによる市外からの来園者の利便性の向上。

桐生市からの回答

1.について

桐生が岡公園（動物園・遊園地）の園内の拡充につきましては、令和3年度に新たな動物として、レッサーパンダの導入に伴い、獣舎建設を実施し、令和4年度に老朽化した「メルヘンカップ」を「ウォーターシューティングライド」に入れ替えるとともに、新たなアトラクションとして、「カード迷路ぐるり森大冒険」を導入いたしました。

今後、令和5年度にはミニ蒸気機関車1台とバッテリーカー1台を更新する予定となっており、更に令和6年度にはカピパラ舎の新たな建設等も予定しております。

なお、遊器具については、しっかりと整備を行うことで長寿命化を図るとともに、ネーミングラइटの実施や募金箱の設置など継続した取組により、更新費用の財源確保に努め、今後もみなさんに親しみ楽しんでいただける桐生が岡公園を目指して行きたいと考えております。

また、有料化につきましては、従前から無料を続けるか、有料化すべきかについての様々なご意見があり、過去にはアンケート調査等も行った経緯もありますが、それぞれの立場から賛否両論あることも事実となっております。ご質問の趣旨も踏まえ、まずは、動物園運営に関する可能性、他の類似する動物園の運営実績や無料・有料それぞれのメリット・デメリット

ット等分析することを優先し調査検討していきたいと考えております。

[回答担当] 都市整備部公園緑地課公園管理係

2.について

桐生が岡動物園・遊園地は、市内はもとより市外・県外からも多くの来園客があり、本市を代表する観光スポットのひとつであることから、同園に来られた市外・県外の観光客をまちなかにも誘導し、本市の魅力を楽しんでいただくための観光施策は大変重要であると考えております。

市では、中心市街地にある「桐生市観光情報センター」を発着地点として、低速電動コミュニティバス「MAYU」を無料運行しています。運行コースとして「遊園地・動物園コース」と「重伝建コース」を設定し、遊園地・動物園への来園者が重伝建地区やまちなかへ訪れることできるようなルート設定を行って、まちなかへの誘導と観光客の利便性をはかっております。また、MAYU車内においても掲示物やQRコードで観光情報発信を行うなど、市内観光スポットへ興味を持ってもらえるような取組を、今後も引き続き推進してまいりたいと考えております。

[回答担当] 産業経済部観光交流課観光振興担当

3.について

現在、2つあるMAYUの運行コースのうち、「遊園地・動物園コース」は、桐生駅及び西桐生駅に停留するコースとなっており、鉄道でお越しになる観光客への利便性向上を図っているところです。また、中心市街地にある桐生市観光情報センター「シルクル桐生」をハブ機能として運行ルート上に加えることで、もう一つの運行コースである「重伝建コース」との乗り換えができ、シルクル桐生を起点としたまちなかへの周遊促進と、来桐客の利便性向上を図っているところです。

今後もより一層利用していただけるよう、利便性の高い運行コース設定の検討を行ってきたいと考えております。

[回答担当] 産業経済部観光交流課観光振興担当